

育成期看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	波崎 由美子	2004.4～
講師	嶋 雅代	2013.4～
助教	内江 希	2016.4～
助教	三反崎 宏美	2017.4～
助教	高村 理恵子	2018.4～
助教	飯田 悠希子	2019.5～

2. 研究概要

研究概要

本領域は次世代の健康・養育を担う女性と子どもに焦点を当て、次世代を産み育てる女性のライフステージすべてに関わる健康支援、母子の健康問題に関する研究を主な内容としている。また「ウイメンズヘルス」と「母性看護学・助産学」「小児看護学」の教育の質の向上と評価にも力を注いだ。具体的には科学研究費補助金を基盤に、若年がん患者、AYA世代がん患者に対する妊孕性支援看護モデル構築、生殖補助医療を受けた母親の母乳育児を通した母親役割に向けた関連探索研究、児への侵襲を最小限とする分娩介助法での母親と新生児の健康状態評価、妊産褥婦を取り巻くソーシャルサポーターへの支援の検討、医療的ケアの必要な子どもの親における災害への備えに向けた支援についての検討について研究を実施している。

キーワード

妊孕性支援、AYA世代がん患者、母乳育児、母親役割獲得、愛着、助産学実習、助産実践、安全な胎児娩出法、熟練助産師、分娩介助法、ソーシャルサポート、親役

業績年の進捗状況

特色等

母性看護学・助産学および小児看護学領域の教育・研究は、母親、子ども、女性、家族の視点で、それらを取り巻く人々のより良い健康、QOLを目指すことを目的に、国内だけでなくとどまらず国外にも研究成果を発表してきた。これらは本学の理念と一致するものである。

本学の理念との関係

波崎は、基盤研究(C)「日本のAYA世代女性がん患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創生」に関する研究実施に向けて、研究分担者とともにフィールドを調整中である。また、昨年度学会発表した研究について、「子宮頸がん検診準備行動を促すための健康教育プログラムの検討」というタイトルで、今年度の福井大学医学部研究雑誌に論文が掲載予定である(共著)。本研究の乳児とのふれあひおよびその母親の語りを取り入れた体験型健康教育プログラムによって、18歳から20歳前半女性の1か月後の準備行動、知識、胎児感情の接近感情スコアが有意に高まり、子宮頸がん検診の準備行動につながる可能性が示唆された。本健康教育プログラムは、将来自分が希望するライフイベントを達成するための性的健康知識と自己健康管理能力を高めることが期待できる。

嶋は若手研究「後年女性に対する生殖補助医療(Assisted Reproductive Technology:以下ART) 終結後のQOL向上に向けた看護支援モデルの構築」において、わが国のART受療者の40%を占める40歳以上の高年女性が妊娠・出産に至らず、治療を終結した後の更年期様症状の特徴を明らかにし、その結果をもとに、ART終結後特有の更年期様症状から生じるQOL向上に向けた看護支援モデルを開発するため、関係施設等と調整中である。本知見を活かすことにより、現代の女性やその家族のARTにおける現状やニーズに沿った看護支援に活かすことができる。また、平成30年度研究推進支援(学術研究育成支援)「助産学実習前の実践課題自己認識型OSCEを組み合わせたシミュレーション学習の評価」により、学生が実習前における自己の実践課題を発見し、準備性を高めて実習に臨むことを目的とした『実践課題自己認識型OSCE(Objective Structured Clinical Examination:以下OSCE)』を組み合わせた学習を実施し、OSCEによる助産実践への効果と、実習前に自己の実践課題をどのように認識して準備性を高めていたのか、について評価し、今後強化すべき教育内容について検討した。その結果、学生は自分の助産実践について振り返り、他者からの評価を受け入れながら自己の実践課題を明確にして実習に臨み、実習初期における助産実践の自己評価が高くなることを明らかにした。これにより、『実習前実践課題自己認識型OSCE』を用いたシミュレーション学習は、学生の実践能力を育成する方法として一定の効果があることが示唆され、助産実践能力を高める効果が期待できる教育方法である。

内江は、「児への侵襲を最小限とする分娩介助法での母親と新生児の健康状態評価」研究において、児の侵襲を最小限とする自然な陣痛と胎児自身の回旋力による出産での産婦と新生児の健康状態を評価することを目的として研究を進めている。現在、協力施設からデータを収集している段階である。本研究の成果により、助産学テキストでの分娩介助法の記載を見直すための基礎データとなり、今後の助産師教育に役立つ一助となる。

三反崎は、孫育てを行う祖父母の自己の存在意識が生きがい及ぼす影響について「幸福度日本一の福井県の祖父母の実態」において半構造的面接を行った結果、福井県の孫育てを行う祖父母の存在意識は13カテゴリーが抽出され、孫のために、娘・息子(親)のために、地域のために孫育てを行っていることを明らかにした。この結果をもとに、祖父母が行う孫育てを、子どもの両親はどの様に捉えているのか、子育て支援の立場から分析していくことを計画している。

高村は、研究活動スタート支援「医療的ケアが必要な子どもの親における災害への備えとその関連要因の検討」に向けて、前年度の研究で示唆された背景要因や心理・社会要因と災害への備えの現状との関連性を明らかにするため質問紙調査の準備中である。本成果は、備えに結び付く具体的な対応策を導き出すことに寄与できるという意義がある。

飯田は、「子育て支援センターに通う母親のスキンケアに関する意識調査」において乳幼児を育児する母親の子どもへのスキンケアの実態と、アトピー性皮膚炎のスキンケア講座受講後の母親の意識変化を調査した。現在、結果を分析し、アトピー性皮膚炎の乳幼児を持つ家族への支援プログラムの基盤を構築中である。本研究は、より現実的な患者教育支援に貢献できるものである。

3. 研究実績

区分	総数	
	2019年分	インパクトファクター(うち原著のみ)
和文原著論文	1	2019年分
	0	0 (0)
英文論文	0	0 (0)
	0	0 (0)
	0	0 (0)
合計	0	0 (0)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書(分担執筆)

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文(審査有)

b. 原著論文(審査無)

c. 原著論文(総説)

d. その他研究等実績(報告書を含む)

e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書(分担執筆)

19113001

波崎由美子：付章、周産期にある母子の看護の事例：板倉敦夫、松崎政代、渡邊浩子：新体系看護学全書 [母性看護学] マタニティサイクルにおける母子の健康と看護、第6版、メヂカルフレンド社、251-274、20191210、978-4-8392-3362-4

c. 編集・編集・監修

業績一覧

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

19113002 網谷 奈央, 波崎 由美子, 上澤 悦子: 子宮頸がん検診の準備行動を促すための健康教育プログラムの検討, 福井大学医学部研究雑誌, 20, 29-40, 202003

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

19113003 嶋 雅代, 内江 希, 三反崎 宏美, 波崎 由美子: 助産学実習前の「実践課題自己認識型OSCE」による学生の自己の実践課題と助産実践の評価, 日本看護技術学会第18回学術集会, 福井市, 20190908

d. 一般講演（ポスター）

19113004 高村理絵子, 嶋雅代, 岬美穂: 医療的ケアの必要な子どもの親における災害への備えの現状と認識, 日本看護技術学会第18回学術集会, 福井市, 20190907

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集會

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

19113005 中川美耶, 勝部有紗, 嶋雅代, 三反崎宏美, 内江希, 波崎由美子: 福井県における保育での実態と保育に関する祖父母の認識, 第32回福井県母性衛生学会学術集会, 福井市, 20190623

19113006

小泉綾香, 木村優希, 村井加奈, 波崎由美子, 嶋雅代, 内江希, 三反崎宏美: 対象者の乳房への関心を高めるBreast Awareness健康教育の評価, 第32回福井県母性衛生学会学術集会, 福井市, 20190623

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

19113007 波崎由美子: AYA世代女性ががん患者の妊孕性温存意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創成に関する研究, 令和元年度「研究交流会」, 20190827

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	医療的ケアが必要な子どもの親における災害への備えとその関連要因の検討	高村 理絵子		2019	910000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	児への侵襲を最小限とする分娩介助法での母親と新生児の健康状態評価	内江 希		2019	780000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	高年女性に対するART終了後のQOL向上に向けた看護支援モデルの	嶋 雅代		2019	1170000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	日本のAYA世代女性ががん患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創成	波崎 由美子		2019	1820000

(B) 奨学寄附金

受入件数	
受入金額	

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本看護科学学会	一般会員	三反崎 宏美
福井県母性衛生学会	事務局(一般会員)	三反崎 宏美
日本母性衛生学会	一般会員	三反崎 宏美
日本助産学会	一般会員	内江 希
日本生殖看護学会	一般会員	嶋 雅代
日本母性衛生学会	一般会員	嶋 雅代
日本母性看護学会	一般会員	嶋 雅代
日本ウーマンズヘルス学会	一般会員	波崎 由美子
日本生殖看護学会	査読委員(一般会員)	波崎 由美子
日本看護科学学会	一般会員	波崎 由美子
日本母性衛生学会	代議員	波崎 由美子
日本母性看護学会	一般会員	波崎 由美子
福井県母性衛生学会	理事	波崎 由美子
日本助産師会	一般会員	波崎 由美子

(C) 座長

国内学会	学会名	氏名
一般講演(口演)	第32回福井県母性衛生学会学術集会	

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長(主査)・委員	氏名
日本母性衛生学会誌	委員	波崎 由美子
日本生殖看護学会誌		波崎 由美子

(E) その他